

認定番号：49 サポーター名：三井住友海上火災保険株式会社

取組実績

1. 流域治水に関連する研究活動への参加

- ・熊本県立大学「流域治水を核とした復興を起点とする持続社会 地域共創拠点」に参画、共同研究を推進。

2. 国内の湿地・里山の保全再生活動を通じた流域治水への貢献 (グループで推進するMS&ADグリーンアースプロジェクト)

- ・自然環境の保全・再生や環境負荷低減、防災・減災、地方創生をテーマとしたグループ共通取組「MS&ADグリーンアースプロジェクト」において、社員とその家族などが日本国内の湿地・里山・藻場で保全再生活動を実施している。
- ・3つの活動拠点である、(1) 熊本県球磨川流域、(2) 千葉県印旛沼流域、(3) 宮城県南三陸町のうち、(1) (2) については以下のとおり、流域治水に貢献する取組である。

(1) 熊本県球磨川流域

大きな被害をもたらした令和2年7月豪雨を受け、弊社グループは熊本県では自然環境との共生を図りながら、流域全体の総合力で安全・安心を実現する「緑の流域治水」を推進している。令和3年度から熊本県球磨川流域で熊本県立大学の研究「流域治水を核とした復興を起点とする持続社会地域共創拠点」に参画した様子について情報を発信している。弊社グループの活動テーマは、地元研究機関の熊本県立大学の研究「流域治水を核とした復興を起点とする持続社会 地域共創拠点」への参画と、流域の上流や下流における防災減災取組み活動、生物多様性の保全及び地方創生である。

認定番号：49

サポーター名：三井住友海上火災保険株式会社

取組
実績

(2) 千葉県印旛沼流域

印旛沼流域における健全な水循環の維持・創出のため、弊社グループはNPOや研究者による地域での取組みと連携し、水循環の維持・創出に貢献する湿地の保全・再生を中心に、地域の社会課題解決に取り組んでいる。この地域の谷津は、低地の湿地や台地の草原・斜面林等で形成された景観を形成している。この谷津の環境を良くすることで雨水の浸み込みや貯水機能を高め、下流に暮らす地域の方々の安全に貢献しつつ、生物多様性保全、温室効果ガスの削減、水質浄化にも貢献活動に携わっている。

3.大規模雨水タンクの設置と運用

- ・三井住友海上駿河台ビル（本社）の地下に3,500トンの容量の雨水タンクを竣工時（1984年）に設置。大雨の前には手動でタンクを空にし、雨水を貯めおくことで、下水道への流入量を減らし、内水氾濫の抑制に貢献。同ビルは、屋上庭園などでも土壌による蓄雨を実現。
- ・2024年度は、大規模雨水タンクの継続運用を実施した。
- ・オフィシャルサイトにおいて、当社ビルのレインガーデンや駿河台ビルの地下には大型の雨水槽について情宣を実施。
(https://www.ms-ins.com/company/csr/nature_positive/)
- ・社員向けセミナーでも、弊社が設備として大規模雨水タンクの設置・運用をしていることを取り上げ、ゲリラ豪雨や台風で下水に一気に流れる雨水を雨水槽で受け止めることにより、都市型洪水の減災に貢献していることを案内した。